

未来へつなぐ 八戸国体

前半勝負も「力不足」

○：スピード成年女子、3000m出場は今回が初めてという木村（八戸学院大）は決勝で「後半のスピード勝負は勝ち目がない」と前半から仕掛けポイント（責任先頭）を得る作戦で臨んだ。スタート直後は2位につけたが、先頭に立つ直前で後続選手に抜かれてそのまま順位を落とし、10位に終わった。体力を消耗し、中盤以降は前方の選手についていくのが精いっぱい。「上位とはスピードも体力も差があった。力不足」。ポイント制のレースは展開の読みや駆け引きなどが鍵となる。「感覚をつかみきれず主導権を握れなかった。今回の経験を残りの大会に生かす」と悔しさをばねに巻き返しを誓った。

少年女子リレー 終盤に逆転 3位



【スピード少年女子2000mリレー決勝】3位と健闘した県勢チーム。1走村崎香穂（八学光星高）から2走上田聖華（八戸東高）へバトンタッチ

好位置キープし追走 保って逃げ切った。1走村崎（八学光星高）は1000m予選で敗れたが3位健闘した。群馬と序盤から競り合いながら、置を守った。高校で競技を滑ることを意識できた。み後方から背中を追う展開。引退する村崎は「ベストな3位という結果を出終盤に逆転に成功、4走根に近しい滑りで、満足いく結果を出せた」と完全燃焼させた。

成年女子リレー 力走4位 少年男子リレー



【スピード成年女子2000mリレー決勝】バトンを手にとりスタートダッシュするアンカー木村（八戸学院大）。奥は3走島くるみ（同）

○：成年女子2000mリレーと少年男子2000mリレーで、本県はともに4位。どちらも4チームで争う決勝で確実にバトンをつなぎ、完走して入賞を確定させた。成年女子で1走を務めた高山（八戸西高）は、2走渡邊（八戸学院大）とのバトンパスで一時3位に順位を上げ、他県の人たちが速い人たちがかりなので、ついていくことに集中した。バトンパスがうまくいったので良かった」と笑顔を見せた。八戸西高単独チームで臨んだ少年男子の2走相崎は「決勝の舞台で滑れたのはいい経験になった」。3走久保は「スピードも体力も全員が総合的にレベルアップできれば、長野など強豪に大差をつけられないレースができればと思う」と経験を今後に生かす考えを示した。